

令和5年度 徳島市上八万中学校 総括評価表

		自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画		評価		学校関係者の意見	
学力向上	主体的に粘り強く学習に取り組む生徒の育成	評価指数	<p>○「今日のめあて」を必ず板書し、本時の目標を確認している。</p> <p>○授業の終わりに本時の振り返りの時間をとっている。</p> <p>○深い理解や考えの形成・再構築を促すペア・グループ活動等を行っている。</p> <p>○ICT活用、板書、ノート指導、発問の仕方等に工夫と改善を加えている。</p> <p>○校内研修を実施し、授業力向上に努めている。</p> <p>○指導と評価の一体化を図り、学習評価を適切に行っている。</p>	評価指数の達成度	総合評定	<p>〈自己評価結果について〉</p> <p>A適切である 50.0%</p> <p>B概ね適切である 50.0%</p> <p>C適切でない 0.0%</p> <p>先生が多忙な中、生徒との関わりを大切に思っていることがわかる。生徒に色々な体験をさせていてありがたい。</p> <p>タブレットを快適な環境で利用できればと思う。職場体験は是非継続してほしい。</p> <p>学力向上は概ね目標に達しているが、GIGAスクール構想の環境が整っていないのは問題で、今後の対応が望まれる。</p> <p>職場体験は非常に良かった。2日することに意義があると思う。</p> <p>〈今後の改善策について〉</p> <p>A適切である 25.0%</p> <p>B概ね適切である 75.0%</p> <p>C適切でない 0.0%</p> <p>職場体験等の色々な経験の中で学習を自分でしていく気持ちが出てくると思う。</p> <p>キャリア教育は引き続き行ってほしい。中学校の間に色々な体験を積み自分の興味のあるものに会えるきっかけを作してほしい。</p>	<p>〈課題〉</p> <p>①多忙な業務の中で教職員の負担を増やさずに研修の時間をどのように確保するかが課題である。</p> <p>②個人端末やその通信環境の不備や不具合により活用が十分にできなかった。また、家庭学習において個人端末をどのように活用させていくかも課題である。</p> <p>③本年度から実施した職場体験や外部講師を招いての講演等からの学びをいかに社会や人生と結びつけていくかが課題である。</p> <p>〈改善方策〉</p> <p>①今後さらなる業務改善を行うとともに、効率的で実りの多い校内研修のあり方について検討を行う。</p> <p>②GIGAスクール関連の各種研究会や研修会に積極的に参加し教職員個々の知識技能を高めるとともに、先進校の取り組み等を参考にして本校の活用方針を作成する。</p> <p>③将来をえがく力を身につけさせるためにキャリア教育を軸に据えたカリキュラムマネジメントを行い3年間を見通した取り組みを行う。</p>
		活動計画		活動計画の実施状況	総合評定		
		①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進		校内研修で意識改革をした。	(評定) B		
		②GIGAスクール構想の実現に向けた取組の推進		学年全体で取り組めた。	(所見) 「深い学び」の実現に向けペア・グループ活動やICTを適切に活用できた。義務研修等を活用し校内研修に取り組むことができた。		
	③将来をえがく力を身につけさせるためのキャリア教育の充実	組織的な取組を行えた。	GIGAスクール端末については、ICT支援員のサポートを受けながら活用するよう取り組んだ。	(評定) B	(所見) 「深い学び」の実現に向けペア・グループ活動やICTを適切に活用できた。義務研修等を活用し校内研修に取り組むことができた。		
豊かな心の育成	美しい学校づくりの推進	評価指数	<p>○清掃の時間、すべての教員が指導にあっている。</p> <p>○教室や廊下などの掲示物が美しく掲示されている。</p> <p>○教室や廊下などの備品等が整理されている。</p> <p>○地域の清掃活動に参加するなどして、地域の環境美化に努めている。</p> <p>○全ての教育活動において人権尊重の精神の涵養をめざしている。</p> <p>○日常的に人権の大切さが実感できる集団づくりに取り組んでいる。</p> <p>○道徳教育において体験的な活動を積極的に取り入れている。</p> <p>○特別活動において自己有用感を高めるよう努めている。</p> <p>○いじめ防止基本方針に基づきいじめ防止に取り組んでいる。</p> <p>○自分から進んで大きな声であいさつができるように指導している。</p> <p>○場に応じた適切な敬語が使用できるように指導している。</p> <p>○職員室・校長室等への入退室の仕方について指導している。</p>	評価指数の達成度	総合評定	<p>〈自己評価結果について〉</p> <p>A適切である 75.0%</p> <p>B概ね適切である 25.0%</p> <p>C適切でない 0.0%</p> <p>あいさつや草抜きをすることで学校を大切にすることが育つと思う。このことが人権を大切にすることにつながる。</p> <p>学校が綺麗に手入れされ素晴らしい。人権研究大会で子どもたちも人権について意識改革できたと思う。</p> <p>人権教育に力を入れていたことがよくわかった。校長が率先して剪定除草をしていることが聞こえてきている。</p> <p>清掃やあいさつ、言葉遣い等は大人社会でも重要なので引き続き取り組んでほしい。</p> <p>〈今後の改善策について〉</p> <p>A適切である 50.0%</p> <p>B概ね適切である 50.0%</p> <p>C適切でない 0.0%</p> <p>生徒、先生、保護者、地域の繋がりが学校をよくしていく。</p> <p>人権教育で学んだことを実践に結びつけられるよう努力してほしい。</p>	<p>〈課題〉</p> <p>①本年度初めて全校一斉除草作業を実施し、成果を上げることができたので、これをさらに有意義な活動にすることが課題である。</p> <p>②本年度は市村人権の会場校としての目的意識があったが、来年度もこのモチベーションを下げないことが課題である。</p> <p>③生徒会が作成した6箇条を軸に生徒自らが自己の品位の向上に努められるようにすることが課題である。</p> <p>〈改善方策〉</p> <p>①実施時期や時間、実施方法などを検討し、やりがいのある行事とする。また、保護者や地域の方の力を借りて、教育環境の整備を行う。</p> <p>②人権教育を進めるにあたり、問題解決的な学習や豊かな体験活動を取り入れるなど多様な工夫を行う。</p> <p>③生徒会活動の活性化を図るとともに、生徒自らが考え行動する習慣を全ての教育活動で身につけさせていく。</p>
		活動計画		活動計画の実施状況	総合評定		
		①美しい教育環境の構築		全校体制での取組に努力した。	(評定) B		
		②美しい心を育む教育の推進		全校体制で取り組めた。	(所見) 美しい教育環境の構築に向けて生徒と教職員が一体となって美化・清掃に取り組むことができた。		
	③美しい言葉や態度を身につけさせるための指導の充実	全ての教育活動で推進した。	全ての教育活動において人権尊重の精神の涵養をめざし、日常の中で人権が大切にできる集団づくりに取り組めた。	(評定) B	(所見) 美しい教育環境の構築に向けて生徒と教職員が一体となって美化・清掃に取り組むことができた。		
働き方改革	教育力の向上と持続可能な学校づくりのための働き方改革の推進	評価指数	<p>○教職員が自身の勤務時間を把握し、自己管理を行っている。</p> <p>○教職員が費用対効果、時間対効果を考えた効率的な活動を進めている。</p> <p>○月平均時間外在校時間が45時間以内に抑えられている。</p> <p>○年次有給休暇が年間15日以上取得されている。</p> <p>○統合型校務支援システム・グループウェアを適切に活用している。</p> <p>○会議の時間短縮が図られている。</p> <p>○行事の精選や統合が行われている。</p> <p>○校務の効率化等が図られている。</p> <p>○平日に1日、土日に1日の休養日が設けられている。</p> <p>○平日で2時間程度、土日で3時間程度の活動時間が守られている。</p> <p>○定期テスト前などは、家庭学習の時間が十分確保されている。</p>	評価指数の達成度	総合評定	<p>〈自己評価結果について〉</p> <p>A適切である 50.0%</p> <p>B概ね適切である 50.0%</p> <p>C適切でない 0.0%</p> <p>外部の教育力を活用したり学校の努力が見られる。地域でできることは協力したい。</p> <p>昨年に比べかなり改善されているように見受けられる。</p> <p>教職員同士の繋がりは子ども達にも影響するので、情報共有を図り暖かい雰囲気づくりに努めてほしい。</p> <p>〈今後の改善策について〉</p> <p>A適切である 25.0%</p> <p>B概ね適切である 75.0%</p> <p>C適切でない 0.0%</p> <p>業務が大変なことは知っているが、先生も家庭を大切にしたいと願う。</p> <p>コミュニケーションをとることはすごく良いと思う。</p> <p>教員の意識改革が難しい課題だと思ふ。年休の取りやすい環境、仕事の効率化にますます力を入れてほしい。</p>	<p>〈課題〉</p> <p>①ワークライフバランスに対する考え方を全ての教職員で共有し、定時退庁や年休取得をしやすいあたたかい雰囲気作りをすることが大切である。</p> <p>②校内の業務改善だけでは、業務量を大きく削減することは難しいため、いかに負担感を減らすことができるかが課題である。</p> <p>③部活動の地域移行について国・県・市の動向を注視し、本校においてもできることから検討に入る必要がある。</p> <p>〈改善方策〉</p> <p>①日頃から教職員同士がコミュニケーションを図り気軽に相談し合える人間関係の構築を図る。</p> <p>②学校行事や校務について働き方改革の視点で見直しを行う。</p> <p>校務支援システム等の活用についての校内研修を実施する。</p> <p>③生徒・保護者、地域、教職員の状況を十分に考慮し、長期的な展望で計画的に部活動のあり方について議論する場を設ける。</p>
		活動計画		活動計画の実施状況	総合評定		
		① 教職員の意識改革		計画的に啓発が行えた。	(評定) B		
		② 業務改善の推進		組織的な取組を行えた。	(所見) 啓発により教職員の意識改革がある程度進み、月平均時間外在校時間や年休取得日数については、年度当初の目標に近づきつつある。		
	③ 部活動の適正化	全職員共通理解の元行えた。	できることから業務改善に取り組むとともに県市の事業を利用し外部人材の教育力を活用した。	(評定) B	(所見) 啓発により教職員の意識改革がある程度進み、月平均時間外在校時間や年休取得日数については、年度当初の目標に近づきつつある。		

総合評価の基準 **A** 目標を上回っている (方策を十分実践している) **B** 目標をほぼ達成している (方策をほぼ実践している) **C** 目標を下回っている (方策をあまり実践していない)